

布土地区（愛知県美浜町）

1. 布土地区の概要

(1) 地域特性

布土地区（※）は知多半島の中央部に位置している。布土地区は東が三河湾に面しており、南北に道路、鉄道が通っている。（※布土地区＝布土学区＝布土区及び時志区）



写真1 布土学区の航空写真（写真上方向が北）

人口は2,870人。高齢化率は27.2%で、全国平均の25.9%（平成26年9月15日現在）より高く、また、15歳未満の若年層は12.1%と、全国平均の12.8%よりやや低い。また、就業年齢にある若い人々の多くは、布土学区外に勤めに出ており、学区内の昼間人口は高齢者と子どもが多くなっている。

学区内の町並みをみると、地震などによる津波災害時には、海側から山側の東西に避難し辛い。海から国道までの避難路は非常に狭く、道の両側に地震で崩れる危険のある古いブロック塀や木造の家屋が点在しており、徒歩でも避難路の確保が難しい。（写真2）さらに、名古屋鉄道の線路（写真3）が走っているため国道から山側への道路は少なく、名古屋鉄道線路以東の住民の避難ルートは限られている。そのため、火災や家屋の倒壊等が起きると、予定している道路が通れないことがある。また、山側への道路は自動車がやっと通れるほどの細い道幅であるため、被災時には自動車での避難は困難であり、

美浜町役場からも、被災時には自動車での避難をしないように呼びかけている。しかし、自力での移動が困難な高齢者や障害者にとっては、非常に深刻な問題である。



(写真 2) 海から国道までの状況



(写真 3) 名古屋鉄道付近

(2) 過去の災害履歴

- ・過去に巨大地震があったが被害状況は不明な部分が多い。
- ・地域住民の記憶にあるのは台風による高潮被害と、大雨による溜池の決壊である。

布土地区のこれまでの災害

台風	昭和 28 年 (1953)	13 号台風 高潮被害
	昭和 34 年 (1959)	伊勢湾台風 高潮被害
溜池決壊	昭和 51 年 (1976)	17 号による記録的大雨
	平成 3 年 (1991)	18 号による大雨
地震	嘉永 7 年 (1854)	安政大地震 (M8.4)
	明治 24 年 (1891)	濃尾地震 (M8.0)
	昭和 19 年 (1944)	昭和東南海地震 (M7.9)
	昭和 20 年 (1945・1 月)	三河地震 (M6.8)

(3) 想定災害

- ・南海トラフ巨大地震が生じた場合の美浜町の最大被害想定では、半数を超える建物が失われる（全壊・焼失）と想定されている。
- ・巨大地震によるブロック塀の倒壊や瓦など、屋外の落下物による犠牲者は、「わずか」と予測されているが、住民による地区内の町歩き調査を実施し、地区内に狭い道幅の道が多いこと、古いブロック塀にひびが入っていたり、割れたりひびが入った屋根の瓦が目につき、倒壊したブロック塀、落下物が原因で避難路が防がれ避難できない危険性が満ちていることに気づいた。

2. 布土地区における従来の取組状況（支援前）

(1) 防災活動、防災訓練の状況

- ・自主防災会を設立し、避難計画、避難訓練、炊き出し訓練等を自主的に展開してきた。
- ・阪神・淡路大震災以前は台風・大雨を想定した訓練がメインであり、津波から逃げる訓練は、東日本大震災以降になってから実施（2012年からは毎年実施）した。
- ・2012年に行われた津波を想定した最初の避難訓練参加者はおよそ350名であった。また、10月に実施した防災訓練では300名程度であった。2015年2月7日に初めて実施した炊き出し訓練には、160名程度の参加であった。

(2) 行政他関係機関との連携状況

- ・区長や総代は、布土公民館を中心として、小学校、町役場、長寿会（老人会）などの諸団体と日頃から連携を取り、協力を得ている。
- ・2014年10月12日（日）の町役場と協力して、役場、消防署、自衛隊の参加を得て、地区住民たちによる大規模な災害避難訓練を実施した。
- ・2014年度は、日本福祉大学防災研究会と協力して、小学生のハザードマップ作り、大人のハザードマップを計6回の避難路を確認しながらの町歩き調査、避難所を拠点としてのトランシーバー交信ネットワークの実証実験、消防団員からのヒアリング、公民館での防災問題についての話し合いの会、大学での防災シンポジウム開催等、積極的な集まりをもった。
- ・炊き出し訓練や避難路調査には、日本福祉大学防災研究会や学生も参加した。

3. モデル地区の取組内容（支援後）

(1) 発生した課題及び解決策

① 類似地区の視察

- ・布土地区では様々な取り組みを行ってきたが、これまでに実際に災害が起こった地域を訪問し、住民等から直接話を聞くなどの体験は少ない。地区防災計画のモデル地区の選定を契機として、災害にあった地域の視察を通し、布土地区での今後の取り組み、地区防災計画の作成に活かしたいとの気運が生まれた。
- ・布土と地形の共通点が多く、また、先進的な取り組みを行い、防災意識を高め、事前の対策がしっかりしていたことで、東日本大震災の津波が起こった時に、人命を守ることについて功を奏した七ヶ浜町花淵浜地区へのヒアリングを実施した。

(2) 地区防災計画の検討

- ・ 区長や総代、美浜町（防災安全課）、および地域の活動を支援する日本福祉大学防災研究会によって地区防災計画についての検討が進められた。
- ・ うち 2 回の会議については、モデル事業アドバイザーが出席し、地区防災計画について、また地区防災計画モデル地区フォーラムの発表内容等についてアドバイスを実施した。
- ・ 2015 年 3 月 14 日、仙台にて開催の国連防災世界会議・地区防災計画モデル地区フォーラムに参加し布土区長が地区の概要、取組等に関する発表を行った。

4. 成果及び今後のスケジュール

- ・ これまでの検討の結果、地区防災計画について現時点では次のように考えている。

○防災に関する課題

「防災訓練」における、「またか」や「めんどくさい」といった意識をなくし、みんなに防災・減災活動に関心をもってもらい、参加してもらうこと。

○課題を踏まえた布土地区の防災計画の要

- ①子供たちをターゲットとすること
- ②みんなが参加したくなる防災訓練・防災活動の展開
- ③災害時には一人ひとりが命を護るために何をすべきかを意識できる

○布学区地区防災計画の策定に向けた 3 つの柱

- ①「楽しい防災訓練」を企画する
- ②「現実味のある防災訓練」を実施する
- ③「小学校の防災訓練に地域の力を巻き込む仕組み」をつくる

- ・ これまでの布土学区防災訓練の振り返り、またヒアリングを行った七ヶ浜町花淵浜の実践を参考にしつつ、課題に取り組んでいくことにより、地区防災計画を作成していく予定である。（現在の布土区長の任期中（平成 27 年度中）の完成を目指す）

5. その他

七ヶ浜町花淵浜地区へのヒアリング参加者（区長、総代）コメント

- ・ 全般的に現実味がある話でよかった。是非、区の人にも話をしてほしい。
- ・ 津波に対して常日頃からまず「高台に逃げろ」が重要であることを周知徹底していたという話に、改めて「まず高いところに逃げること」の重要性を認識した。
- ・ 東日本大震災の被災時の話を聞いて、10センチメートルの津波でも瓦礫を含んでい

るので人命にかかわることが分かった。普通は、この程度なら死ぬと思わないが、瓦礫が流れてくると、足はすぐに掬われてしまう。皆に伝えたい。

- 日頃の防災訓練、避難訓練については、終わった後の反省会とか、住民同士の飲みニュケーションを含めた意思疎通が重要であることに、その通りだと思った。
- 被災時、重要な決断をしなくてはならないときに、みんなですぐに花渕浜の区長さん（当時役員）を支持したことなど、信頼関係ができているんだと感じた。
- 緊急避難場所をどこに置くのが安全なのかとことん話し合いがなされていて、実際に場所を変更していたり、震災3ヶ月前に地区で完成している取り組みはすごい。